報告事項２－１

# 2025 年度 事業計画


Ⅰ．基本的考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ．事業の概要（主な活動・ＫＰＩ） ・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅲ．具体的な活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅳ．理事会・総会等の主要スケジュール ・・・・・・・・・・・ １３

（付１）活動一覧（委員会、戦略会議、懇談会、事務局） ・・・・・ １４

（付２）関連協議会等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６


一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

## Ⅰ　基本的考え方　～ 第２期中期計画 ２年目 ～

本会は 2021 年に**「九州将来ビジョン 2030」**を公表し、3 つのありたい姿「新たな時代の成長エンジン」「心の豊かさを成長につなぐ幸せコミュニティ」「自立型広域連携アイランド」を掲げた。

同ビジョンの実現に向けて策定した 3 年毎の中期事業計画は、昨年度から第 2 ステップに入った。この**第 2 期中期事業計画（2024～2026 年度）**では、「“九州から日本を動かす”新たな価値の創出 ～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦」をテーマとし、**「11 の重点戦略」**と「具体的取組」を設定している。

2025 年度は、600 兆円規模の日本経済が緩やかに成長する見通しである。その約 1 割を担う九州も、民間消費の回復と、半導体関連産業での近年の設備投資が生産に結び付き始め、3 年連続で日本全体を上回る成長となる見通しである。

一方で、世界経済は日本経済より一段と成長幅が大きいと予測されている。日本の GDP は、2023 年のドイツに続き、2025 年中にインドに抜かれて世界 5 位となるとの予測もあり、**世界における日本の地位低下が進行する見込みである**。

こういった中、**日本政府は、地方こそ成長の主役とする「地方創生 2.0」を掲げ**、人口規模が縮小しても経済成長できるよう、東京一極集中の是正や付加価値創出型の新しい地方経済創生などへ向けた施策を本格化させようとしている。

**本会は、これまでの取組を強化し、着実に推進し**ていくことが、まさに東京一極集中の是正といった国の目指すゴールに結びつくものと考える。2025 年度も、会員・地域の声を反映しながら、**「九州将来ビジョン 2030」の実現へ向けた本質的な課題の解決に取り組んでいく**。

具体的には、**新生シリコンアイランド九州の実現**に向けた取組を強化するとともに、**農林水産業の振興と輸出拡大**など九州の強みを活かしながら九州の**成長エンジン**を伸ばしていく。また、地方創生 2.0 の追い風をとらえ、**若者・女性に選ばれる地域づくり**を推進するとともに、九州全域の**賃上げ機運の醸成**を図り、**成長と分配の好循環を実現**していく。更に、九州の産学官のまとまりの良さを活かし、**九州 MaaS** やデジタルを活用した**災害対策の高度化**などハード・ソフト両面からインフラ整備を推進し、**自立型広域連携アイランド**を目指していく。

九州は、1 国に相当する規模を有しており、世界、日本の中でも注目される地域である。半導体関連産業の集積や農林水産業が盛んであること、クリーンで安価なエネルギーに恵まれていること、全国に比べ出生率が高いこと、伸びゆくアジアに近いことなど、多くの強みも有している。

**本会は、これらの強みを活かしながら、九州の各地域が持つポテンシャルを引き出し、官民連携や広域連携といった九経連ならではの視点・手法により、九州を元気にし、九州から日本・世界の明るい将来に貢献していけるよう取り組んでいく**。

# 2025年度 事業計画　基本的考え方

## 九州将来ビジョン2030

2021年、創立60周年の節目に『**九州将来ビジョン2030**』を策定。
2030年の九州の「ありたい姿」の実現に向けて、
原則3年ごとに「中期計画」を策定し、3ステップで取り組んでいます。

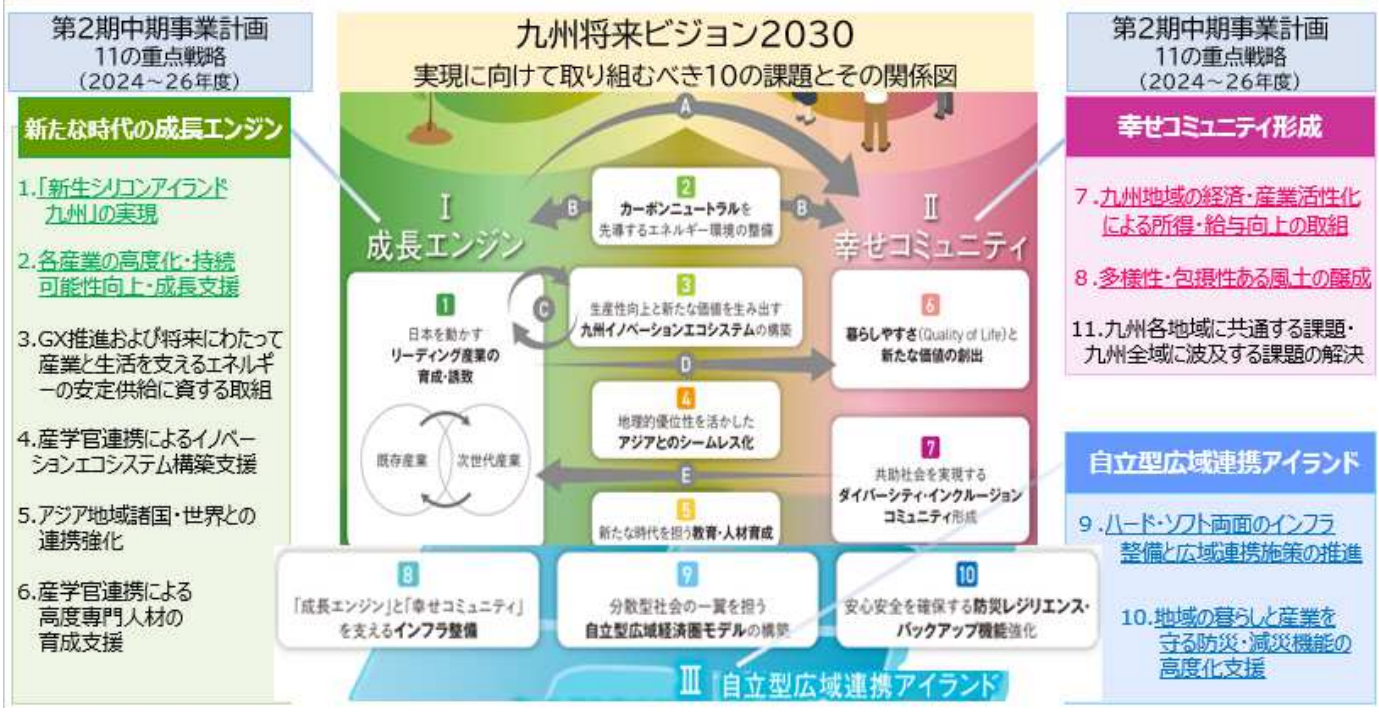
## 第2期中期計画(3ヵ年)

2024年度からの**第2期中期計画（2024～2026年度）**では、
**「 " 九州から日本を動かす " 新たな価値の創出**
**～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦 」**を基本方針に取り組む。
具体的には、「11の重点戦略」と「具体的取組」に沿って、活動を展開。




## 2025年度 事業計画　基本的考え方　（ビジョンと中期計画に基づく単年度計画）

＜ 2025年度方針 ＞
**2025年度は、新生シリコンアイランド九州の実現に向けた取組を強化するとともに、農林水産業の振興と輸出拡大など九州の強みを活かしながら九州の成長エンジンを伸ばしていく。また、地方創生2.0の追い風をとらえ、若者・女性に選ばれる地域づくりを推進するとともに、九州全域の賃上げ機運の醸成を図り、成長と分配の好循環を実現していく。更に、九州の産学官のまとまりの良さを活かし、九州MaaSやデジタルを活用した災害対策の高度化などハード・ソフト両面からインフラ整備を推進し、自立型広域連携アイランドを目指していく。**



## Ⅱ　事業の概要（主な活動・ＫＰＩ）

| 11 の重点戦略<br>（2024～26 年度） | 主な活動（2025 年度）<br>※【継】昨年度から継続　【新】今年度新規性有り | 主なＫＰＩ（2025 年度）<br>※青字：新たな設定・上方修正（対昨年度） |
|---|---|---|
| 1.新生シリコンアイランド九州の実現<br>～半導体関連産業を中心とした産業集積支援と新たなまちづくり等に向けた取組 | ▷会員企業および九州地域戦略会議と連携した課題解決の取組み推進【継】<br>▷半導体関連企業及び半導体ユーザー企業の誘致支援【継】<br>▷次世代自動車や産業用ﾛﾎﾞｯﾄ、AI 等の半導体応用分野に関する調査・研究【新】 | ▷ビジネスエコシステム中核拠点の整備に取り組む自治体１団体以上<br>▷日台協業の枠組み構築、日台企業による協業１件以上 |
| 2. 各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援 | ▷九州地域戦略会議「九州の食輸出促進」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行【継/新】<br>（現地市場ニーズ分析、オール九州フェア、輸出支援機能強化について、官民一体の食輸出推進チーム、九州の食輸出協議会等により支援強化）<br>▷地域農業を地域企業で支える”人的支援”の取組強化【継】<br>（援農アプリ活用＋企業からの人材派遣の仕組みづくり）<br>▷耕作放棄地対策の企業参入優良事例の調査、及び自治体連携モデル作成【新】<br>▷九州産木材の需要創出に向けた課題整理、周知具体策の展開【継】<br>▷「地域 DX 促進活動支援事業」の実施【継】 | ▷九州フェア開催５件、招聘バイヤー２件<br>▷農業労働力支援企業５社<br>企業人材派遣スキーム策定<br>▷耕作放棄地対策モデル策定<br>▷非住宅木造、木質化の新規計画３件以上<br>▷DX ｾﾐﾅｰ等１回、DX ﾏｯﾁﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄ１回 |
| 3. GX 推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組 | ▷会員企業を対象としたアンケートによる取組み状況把握および課題集約、結果を踏まえた情報発信および脱炭素取組支援【新】<br>▷脱炭素技術を有する企業と自治体のマッチングイベントの共催等を通じた地域脱炭素化支援【継】<br>▷ＥＳＧ投融資拡大に向けた金融機関の取組支援【継】<br>▷電化・ﾒﾀﾈｰｼｮﾝｶﾞｽ・蓄電池等の社会実装に向けた情報発信と協業支援および再エネや原子力など脱炭素電源の最大限活用に資する情報の発信・要望活動等 再エネに係る新技術の調査・研究 再エネ産業化推進支援【継】<br>▷サーキュラーエコノミーの意識啓発に資する講演会等を通じた情報発信、動静脈産業連携の支援【継】 | ▷ﾏｯﾁﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄ参加自治体・企業の満足度向上［90%］（参考：2024 年度 83%）<br>▷ESG 投融資拡大に向けたインパクト宣言・事例共有の実施 |
| ４．産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援 | ▷「九州・大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰ振興会議」や「九州・山口ﾍﾞﾝﾁｬｰﾏｰｹｯﾄ」等への参画【継】<br>▷ 九州におけるベンチャー支援団体・自治体による連携した取組みの促進【継】<br>▷ ベンチャー・スタートアップと会員企業との連携促進【継】 | ▷連携促進施策　１件以上<br>（連絡会設立や団体間の新たな連携施策など） |
| ５．アジア地域諸国・世界との連携強化 | ▷タイ経済交流ミッションの派遣（2025 下期）【新】<br>▷九州ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ in ﾊﾉｲ(KPC)の周知広報活動【継】<br>▷World One Health Congress 2028等国際会議誘致支援【継】 | ▷参加企業 10 社 30 名<br>▷KPC 月間来場者 1,000 名 |
| ６.産学官連携による高度専門人材の育成支援 | ▷ICT 人材育成インターンシップの九州広域展開に向けた、未参加エリア（県）の会員企業、大学への参画の働きかけ【継】 | ▷ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加 15 社/20 名、参画拡大（県・企業・大学　各１つ以上） |
| 7. 九州地域の経済・産業活性化による所得・給与向上の取組 | ▷構造的な賃上げによる経済好循環の実現に向けて、九州各県における賃上げの動向を調査し、会員企業等へ働きかけ【継】 | ▷総会・地域委員会、九州地域戦略会議等での働きかけ |
| 8. 多様性・包摂性ある風土の醸成 | ▷九州地域戦略会議「子育てランド九州」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行【継/新】<br>（男性育休２週間取得 100%を要件とした認証制度の創設） | ▷九州各県・団体統一の認証制度の創設 |
| 9. ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進 | ▷事業化・事業の早期実現に向けた要望活動、インフラ整備対応強化【継】<br>▷九州における広域データ連携の在り方に関する検討<br>▷九州地域戦略会議「九州 MaaS」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行【継/新】<br>・地域経済の活性化につながる取組の推進<br>（観光・イベント等地域のコンテンツとの連携、インバウンド誘致等）<br>・官民共創事業の実施（移動円滑化、移動需要の創出、持続可能な地域交通の構築） | ▷要望事業による着実な整備進捗<br>▷ QDP の必要性整理<br>構成・認証 ID・機能等の草案<br>▷事業計画に定める事業評価指標の実現 |
| 10. 地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援 | ▷九州地域戦略会議「防災・減災対策高度化」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行【継/新】<br>・災害情報活用における広域連携の実証・実装（「PREIN」活用）<br>・初動対応方針の策定、情報の標準化及び出口戦略の検討<br>▷九州防災 DX ﾀｽｸﾌｫｰｽによる新たなサービス実証等の共創事業【継】 | ▷特定県を起点とした複数県連携の実証３件<br>初動対応方針１件の整備とその情報の標準化<br>▷共創事業２件 |
| 11. 九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決 | ▷九州地域戦略会議「サイクルツーリズムの聖地・九州」ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実行【継】<br>（「ツール・ド・九州 2025」開催、サイクルスポーツ起点の観光振興）<br>▷人材確保・活躍に資する取組（副業人材、若者定着、留学生）【継/新】<br>（「企業間人材共有モデル」実証、探究学習プログラム「Locus」活用、高度外国人材活躍地域コンソーシアム・大学等との協働）<br>▷交流・関係人口拡大に向けた取組【継】<br>（九州国立博物館 20 周年への誘客支援、九州と本州の連携強化・関門地域の一体的発展施策実施、九州国際医療機構による医療渡航者誘致と受入体制強化）<br>▷幸せコミュニティ推進に資する取組（健康経営）【新】<br>（「WE-Net 九州」研修会を通じた、健康経営に関する課題解決プラン・提言） | ▷「ツール・ド・九州」ビジョン策定<br>▷地域実践事業×5 エリア<br>（モデルの実証及びそれに資する取組２件、外国人材の協働事業３件以上）<br>▷地域実践事業×3 エリア<br>（九国博と九州 MaaS との連携策実施、関門ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・観光分野調査、医学関係学会との連携・海外への情報発信） |

＜参考＞　2024 年度　振り返り

| 11 の重点戦略<br>（2024～26 年度） | **主な活動（2024 年度）**<br>※【継】昨年度から継続　【新】今年度新規性有り | **主なＫＰＩ、達成状況**（2024 年度 3 月末）<br>◎:達成　▲:未達成 |
|---|---|---|
| 1.新生ｼﾘｺﾝｱｲﾗﾝﾄﾞ九州の実現<br>～半導体関連産業を中心とした産業集積支援と新たなまちづくり等に向けた取組 | ▷「新生ｼﾘｺﾝｱｲﾗﾝﾄﾞ九州」実現へ、全体像・課題を整理【新】<br>▷台湾企業との協業支援、海外ミッション派遣【新】 | ▷協議体設置（6 月戦略会議）・WG 始動<br>◎[情報連絡会 始動（8 月、戦略会議）、半導体戦略専門部会 始動（9 月、九経連）]<br>▷協業モデル構築<br>▲[日台協業のﾌｫｰﾗﾑ開催（12 月）、日台協業の枠組み構築・協業開始は次年度予定] |
| 2．各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援 | ▷「地域 DX 促進活動支援事業」の実施【継】<br>▷海外小売店での九州フェア開催（各県出品拡大）【継】<br>▷企業研修への農業カリキュラム導入や援農アプリ活用【継】<br>▷耕作放棄地の活用モデルの検討【新】<br>▷中山間地における「スマート農業導入モデル」各県展開【継】<br>▷九州各県と連携した木材サプライチェーンの構築、地元材による供給情報の集約・活用【継】 | ▷支援企業 25 社 ◎[54 社]<br>▷九州フェア開催 5 ヵ国・地域 ▲[3 ヵ国・地域（5 件）]<br>▷農業労働力支援企業 3 社 ◎[8 社]<br>▷（◎耕作放棄地優良事例調査 5 件）<br>▷モデル活用事例 3 件 ◎[3 件]<br>▷木造非住宅の新規計画 1 件以上 ▲[0 件] |
| 3．GX 推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組 | ▷技術保有企業と自治体の脱炭素ﾏｯﾁﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄ共催【継】<br>▷ESG 投融資の拡大に資する県域を越えるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの組成【継】<br>▷再エネ主力電源化や原子力最大限活用、水素の利活用等の国要望【継】 | ▷選定地域 3 件/1 回 ◎[3 件]<br>▷広域連携ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ組成 1 件 ▲[0 件] |
| 4．産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援 | ▷九州域外からの資金調達支援【継】<br>▷域外への九州発スタートアップの魅力の発信【継】<br>▷ﾍﾞﾝﾁｬｰｷｬﾋﾟﾀﾙや投資ﾌｧﾝﾄﾞ等との連携及び支援【継】 | ▷資金調達率全国比 3.5%<br>▲[2.89%（第 2Q 時点）]<br>（出所：Japan Startup Finance 2024） |
| 5．アジア地域諸国・世界との連携強化 | ▷ベトナム経済交流ミッションの派遣（2025.3）【継】<br>▷九州ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ in ﾊﾉｲ(KPC)のプロモーション【継】<br>▷World One Health Congress 2028 等国際会議誘致支援【新】 | ▷参加企業 20 社 50 名 ▲[19 社 34 名]<br>▷KPC 月間来場者 1,200 名 ▲[約 900 名] |
| 6.産学官連携による高度専門人材の育成支援 | ▷「受入企業・参加学生の拡大方法」「ｽｷｰﾑ・運営方法」等の課題整理を行い、実施スキームを策定【継】 | ▷ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加 13 社/22 名 ▲[13 社/15 名]<br>九州広域への拡大スキームの策定<br>▲［ｽｷｰﾑ策定未達］（企業・大学の個別訪問のみ） |
| 7．九州地域の経済・産業活性化による所得・給与向上の取組 | ▷九州地域戦略会議への九州経済四団体共同の取組報告、九州各県による賃上げ企業への支援拡充の働きかけ【新】 | ▷九州全県での支援拡充 ▲[5 県が拡充] |
| 8．多様性・包摂性ある風土の醸成 | ▷九州目線でのジェンダー平等推進へ、法整備提言【新】<br>▷女性管理職ﾈｯﾄﾜｰｸ「WE-Net 福岡」の九州広域化【新】<br>▷全企画部会等への会員企業女性管理職の参画促進【新】 | ▷取組方針を変更 ◎[九州地域戦略会議「こどもまんなか九州」宣言～次期ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ策定へ]<br>▷WE-Net「九州」研修会 2025.1 開始<br>◎[12 月開始 40 名参加]<br>▷女性管理職の参画 10 名以上 ◎[12 名/6 部会] |
| 9．ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進 | ▷事業化・事業の早期実現に向けた大会開催等【継】<br>▷「九州広域ﾃﾞｰﾀ連携ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ（QDP）」の検討【継】<br>▷オープン/パーソナルデータのユースケース選出、PoC 等の実施による課題整理【継】<br>▷デジタル認証 ID 導入へ、サービスを比較検討【継】<br>▷九州 MaaS「協議会」設立、「ｻｰﾋﾞｽ」開始【継】 | ▷要望事業の着実な整備進捗 ◎[実施済]<br>▷データ連携基盤の在り方の決定 ▲[未決定]<br>▷ユースケースの決定 ◎[決定済]<br>▷デジタル認証 ID の決定 ▲[未決定]<br>▷設立総会：4 月、ｻｰﾋﾞｽ開始：8 月頃◎[8/1 開始] |
| 10．地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援 | ▷災害情報活用における広域連携へ、PoC 実施【継】<br>▷瞬低・瞬停ﾘｽｸ低減へ、落雷予測技術の有効性検証【継】<br>▷サービスの企画・検討（九州防災 DX ﾀｽｸﾌｫｰｽ活用）【継】 | ▷広域連携の実証 2 件以上 ◎[5 件]<br>▷予測情報サービス実証 5 社 ◎[4 社 7 工場]<br>▷企画・PoC 準備 1 件 ◎[2 件] |
| 11．九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決 | ▷ツール・ド・九州 2024 と持続可能な運営を支援【継】<br>▷大会をフックとした地域活性化事業の協業支援【継】<br>▷外国人材活躍による人材確保施策の推進【新】<br>▷交流・関係人口拡大に向けた取組【継】 | ▷2025 大会開催県拡大 ◎[3→5 県]<br>▷地域活性化事業×開催 3 ｴﾘｱ ◎[3 ｴﾘｱ]<br>▷人材確保に資する取組 ◎4 件（期中に設定）<br>▷地域資源活用ﾓﾃﾞﾙ創出 x 2 ｴﾘｱ ◎[2 ｴﾘｱ] |

## Ⅲ　具体的な活動内容

第 2 期中期事業計画（2024～2026 年度）における「重点戦略」の「具体的取組」に沿って、2025 年度の活動計画を記載。

### 重点戦略１　「新生シリコンアイランド九州」の実現　～半導体応用産業と半導体関連産業を中心としたビジネスエコシステムの構築とまちづくり等に向けた取組

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

**①　会員企業および九州地域戦略会議と連携した課題解決の取組み推進**

・地域の既存産業の特徴や産業政策に応じたビジネスモデルの創出
・ビジネスエコシステム中核拠点の整備促進
・日台協業によるサプライチェーンの強靭化に向けた取組みの推進
・九州地域戦略会議の九州創生アクションプランに基づく、官民連携施策の実施

【*KPI*】　ビジネスエコシステム中核拠点の整備に取り組む自治体 1 団体以上

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

**②　半導体ユーザー企業及び半導体関連企業の誘致支援**

・台湾企業との協業の枠組み構築と協業支援
・半導体ユーザー企業及び半導体関連企業の九州進出に係る情報収集と誘致支援

【*KPI*】　日台協業の枠組み構築、日台企業による協業 1 件以上

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

**③　半導体応用分野（次世代自動車等）に関する調査・研究**

・次世代自動車（EV、SDV、自動運転等）や産業用ロボット、AI 等の半導体応用分野に関する調査・研究

### 重点戦略２　各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援

〔地域共創委員会〕

具体的取組

**①　食品の輸出拡大に向けた官民共同プロモーションによる各種輸出フェア等の連携実施**

・　九州地域戦略会議「九州の食輸出推進」プロジェクト実行
（現地市場ニーズ分析、オール九州フェア、輸出支援機能の強化 等）

・ 輸出支援機能の強化へ、「九州の食の輸出推進チーム*」の構成８機関が持つアセットを活用した協業深化（マーケットインの商品開発支援等）

＊輸出支援８団体：九州農政局、農研機構、農林中金、九商連、中小機構、JETRO、九経連、九州経済産業局

・ 現地系小売店の販路開拓へ、「九州の食輸出協議会（事務局：九経連」を受け皿にした地元食品等輸出支援（海外小売店での九州フェア、バイヤー招聘等による新規開拓）

【*KPI*】九州フェア開催５件、招聘バイヤー2 件

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ② 農業の持続的成長に向けた多様な担い手の確保と生産性向上支援

・ 「地域農業を地域企業で支える仕組み」を基点とした、人的支援の取組強化

＜農業体験＞ 企画研修への農業カリキュラム導入や援農マッチングアプリ活用
＜人材派遣＞ 企業からの人材派遣の仕組みと農家の受け皿づくり（農業団体と連携）

【*KPI*】農業への労働力支援企業５社、企業人材派遣スキーム策定

・ 耕作放棄地対策の企業参入優良事例の調査、及び自治体連携モデル作成

【*KPI*】耕作放棄地対策モデル策定

・ 域外企業の九州農業参入のため、九州各県一体となった課題解決に資するセミナー・シンポジウムを開催（経団連共催事業）

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ③ 中大規模木造建築物の普及による林業活性化と CO2 削減への貢献

・ 九州産木材の需要創出に向けて、非住宅木造建築物普及に関する課題整理･対応策の検討、及び木造・木質化のメリット周知による PR 活動（林業専門部会「モクビル研究会」）

【*KPI*】モクビル建設・既存建築物の木質化に関する新規計画３件以上

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ④ 九州全域での中堅・中小企業に対する DX 支援の推進

・ 地域ニーズに合わせた中小企業向け DX 推進啓発活動の実施（セミナー・講演会 等）

・ 各地域の DX 支援団体や九州 DX 推進コンソーシアム、自治体と連携した中小企業向け DX 支援施策の実施（相談会、マッチングイベント 等）

【*KPI*】DX 啓発活動１回、DX 実践施策１回

## 重点戦略３　GX 推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ①　脱炭素社会の早期実現に向けた意識醸成や協業支援等の取組み

- 会員企業を対象としたアンケートによる取組み状況把握および課題集約
- アンケート結果を踏まえた情報発信および脱炭素取組支援
- 脱炭素技術を有する企業と自治体のマッチングイベントの共催等を通じた地域脱炭素化支援

【KPI】イベント参加者の満足度 90%以上

- ESG 投融資の拡大に向けた金融機関の取組み支援

【KPI】ESG 投融資拡大に向けたインパクト宣言・事例共有の実施

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ②　電力需要増加を見据えたエネルギー安定供給に資する取組み

- 電化・メタネーションガス・蓄電池等の社会実装に向けた情報発信と協業支援
- 再エネや原子力などの脱炭素電源の最大限活用に資する取組み（情報発信、要望活動等）
- 再エネに係る新技術の調査・研究、及び再エネ産業化推進支援

〔資源エネルギー･環境委員会〕

具体的取組

### ③　サーキュラーエコノミー（循環経済）の実現に向けた取組み

- サーキュラーエコノミーの意識啓発に資する講演会等を通じた情報発信
- 動静脈産業連携の支援

【*KPI*】講演会等参加者の理解度 80%以上

## 重点戦略４　産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ①　ベンチャー支援活動への参画および各支援団体・自治体間の連携促進

・「九州・大学発ベンチャー振興会議」や「九州・山口ベンチャーマーケット」等への参画
・九州におけるベンチャー支援団体・自治体による連携した取組みの促進
・ベンチャー・スタートアップと会員企業との連携促進

【*KPI*】連携促進施策（連絡会設立や団体間の新たな連携施策など） 1 件以上

## 重点戦略５　アジア地域諸国・世界との連携強化

〔総務国際部〕

### 具体的取組　① MOU 締結先の企業と九経連会員企業との交流機会の提供

・ タイへの経済交流ミッションの派遣（タイで課題となっているヘルスケア分野を中心に、タイ投資委員会ほか関係機関と事前協議の上テーマを設定）※下期派遣予定

【*KPI*】ミッション参加企業 10 社 30 名

・ 国内外の媒体や各種会合等を活用した九州プロモーションセンターin ハノイ(K.P.C.)の周知広報活動を引き続き実施

【*KPI*】K.P.C.月平均来場者数 1,000 名

〔総務国際部〕

### 具体的取組　② 他団体と連携した MICE 等誘致支援

・ 「World One Health Congress 2028 福岡大会」など域内への国際会議誘致支援

## 重点戦略６　産学官連携による高度専門人材の育成支援

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

### 具体的取組　① 先導的 ICT 人材育成事業（インターンシップ）の推進と九州広域展開

・ ICT 人材インターンシップ事業の九州広域展開に向けた、未参加エリア（県）の会員企業、大学への参画の働きかけ

【*KPI*】・インターンシップ参加 15 社/20 名
・拡大=新規 1 県以上、企業 1 社以上、大学 1 校以上

## 重点戦略７　九州地域の経済・産業の活性化による所得・給与向上の取組

〔経営企画室〕

### 具体的取組　① 適正な価格転嫁による成長と分配の好循環の実現

・ 構造的な賃上げによる経済好循環の実現に向けて、
九州各県における賃上げの動向を調査し、会員企業等へ働きかけ

【*KPI*】総会・地域委員会・九州地域戦略会議等での働きかけ

## 重点戦略８　多様性・包摂性ある風土の醸成

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ①　ジェンダー主流化の取組

・　九州地域戦略会議「子育てランド九州」プロジェクト実行
（男性育休２週間取得 100%を要件とした認証制度の創設　等）

・　女性活躍推進に向けた具体的取り組みと、オール九州での風土醸成
＜WE-Net 九州＞　女性管理職ネットワーク「WE-Net 九州」研修会実施と、九州各地からの参画促進
（2024 年度に「WE-Net 福岡」事務局を九経連へ移管し「WE-Net 九州」に改称）
【KPI】九州各地域からの参画（福岡以外 8 名以上/2026 年度）

＜九経連各部会＞　九経連活動への更なるダイバーシティ視点の取り込みのため、全ての委員会の企画部会等を対象に、会員企業の女性管理職の参画促進
【*KPI*】女性管理職の参画 15 名以上

## 重点戦略９　ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進

〔交通委員会〕

具体的取組

### ①　インフラ整備の事業化及び事業の早期実現に向けた要望活動

・　事業化・事業の早期実現に向けた要望活動、インフラ整備対応強化
地域の産業振興を目的として、基盤となるインフラ整備の強力な推進のため、事業化及び事業の早期実現に向けた活動（機運醸成・促進大会開催・要望活動）の実施

＜道　路＞　循環型高速道路（高規格道路）の早期整備
東九州自動車道､九州中央自動車道、西九州自動車道、南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路、中津日田道路、中九州横断道路、下関北九州道路、島原・天草・長島架橋構想など

＜空　港＞　地域拠点空港としての確実な整備
福岡空港の滑走路処理容量拡大及び空港アクセスの向上、訪日誘客支援空港整備支援
各県空港間の連携によるインバウンドの招致・回遊促進

＜鉄　道＞　地域間格差の是正
西九州新幹線における新鳥栖駅～武雄温泉駅間の整備促進、東九州新幹線の整備計画路線への格上げ

＜港　湾＞　国際拠点港湾としての機能向上と整備促進

＜地域交通及び物流機能維持・確保＞
地域交通の移動手段を維持・確保するための財政支援など

【*KPI*】要望事業による着実な整備進捗

〔産業振興･デジタル推進委員会〕

具体的取組

### ② 九州における広域データ連携のあり方に関する検討

・ 九州広域データ連携プラットフォーム（QDP）のユースケースやコスト低減効果の調査・検討を踏まえた、ＱＤＰの必要性の整理

【*KPI*】QDP の必要性の整理

・ QDP の構成や認証 ID、機能等について、ユースケース及び各県等が構築済のデータ連携基盤の状況等を踏まえて草案を作成

【*KPI*】QDP の構成・認証 ID・機能等の草案

・ QDP の構築及び運営における体制、並びに運用ルールについて、九州域内・域外の先行事例を調査・研究

〔交通委員会〕

具体的取組

### ③ 九州 MaaS の推進

・ 九州地域戦略会議「九州 MaaS」プロジェクト」実行

<地域経済の活性化につながる取組の推進>
観光・イベント等地域のコンテンツとの連携、インバウンド誘致等

<官民共創事業の実施>
移動円滑化、移動需要の創出、持続可能な地域交通の構築

【*KPI*】九州 MaaS 協議会事業計画に定める事業評価指標の実現

## 重点戦略 10　地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援

〔地域共創委員会〕

具体的取組

### ① 防災 DX の官民共創（災害対策高度化支援、防災対策サービスの官民共創、広域連携の仕組みづくり）

・ 九州地域戦略会議「防災・減災対策高度化」プロジェクト実行
（オール九州の効果的な連携体制構築、先端技術や DX 導入による災害対策の高度化）

<連携体制> 広域災害時における初動対応方針の策定及び各県間で共有すべき情報の標準化と、これらの情報を効果的に活用する出口戦略の検討

【*KPI*】１件の整備とその情報の標準化

<高度化> 災害情報活用プラットフォームを用いた広域連携の実証・実装

【*KPI*】特定県を起点とした複数県連携の実証３件

・　「九州防災 DXタスクフォース」会員企業のリソースを活用したサービスの実証等の共創事業

【*KPI*】共創事業２件

## 重点戦略 11　九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決

〔地域共創委員会〕

### 具体的取組　① 地域への経済効果の最大化を目的とした「ツール・ド・九州」の開催

・　九州地域戦略会議「サイクルツーリズムの聖地・九州」プロジェクト実行
  - プロジェクトの核「ツール・ド・九州 2025」の開催
  - 大会の全県展開、持続的開催に向けたビジョン・運営体制の検討
  - 「サイクリングアイランド九州」事業の面的展開、年間通じた誘客イベント等

【*KPI*】「ツール・ド」ビジョン策定

・　ツール・ド・九州と地域活性化事業との協業支援

・　第三期九州観光戦略の推進（大規模イベント等を活用した九州の魅力発信）

〔地域共創委員会〕

### 具体的取組　② 地域に根差した連携事業（産学官民協働）の展開

**<人材確保・活躍推進>**　【*KPI*】地域実践事業 x5 エリア

・　柔軟な働き方・雇用の多様性による都市人材と地域との「人材共有モデル」事業の実証及びそれに資する取組２件（九州域内／域外での副業人材活用）

・　若者の地元定着・九州への人材還流促進のため、高校の必修授業「総合的な探究の時間」を活用した、地元企業を知る機会創出に資する取組（探究学習プログラム「Locus」の活用）

・　「九州高度外国人材活躍地域コンソーシアム」（事務局：福岡県、JETRO 福岡、九州経済産業局）、大学等との協働による、留学生の域内就職増に資する取組（合同勉強会の開催、インターンシップ企画・検討等）

**<交流・関係人口拡大>**　【*KPI*】地域実践事業 x3 エリア

・　地域資源の発掘・活用による、交流・関係人口拡大に向けた取組（特定エリアでのモデルづくり、九州国立博物館の活用 等）

・　九州と本州の連携を強化し、関門地域の一体的発展を図るため、北九州市・下関市の広域連携を軸とした地域ブランド向上に向けた活動（関門連携委員会）

・ 九州国際医療機構（KIMO）による九州経済の活性化推進（医療渡航者の九州誘致、外国人患者への医療提供に係るリスク軽減、外国人患者受入れを行う医療機関拡大）

**<幸せコミュニティ推進>**

・ 女性管理職ネットワーク「WE-Net 九州」研修会の第 11 期（2025 年度）活動テーマを〝健康経営”とし、研修会を通じた企業の健康経営推進や社会課題の解決に向けたプラン・提言実施

**<各地域委員会>**

・ 九経連全体の地域課題解決プロジェクトとの協働・連携事業

・ 会員意見交換会や視察会等を通じ、各地域の産業構造の特色に応じた課題抽出と九経連活動への反映
・ 会員相互の交流・連携の促進

## Ⅳ　理事会・総会等の主要スケジュール

2025年

| | |
|---|---|
| 5 月 | 第 181 回理事会（12 日、福岡市） |
| | 第 47 回九州地域戦略会議（28～29 日、福岡市） |
| 6 月 | 第 65 回定時総会・第 182 回理事会（11 日、福岡市） |
| 8 月 | 第 22 回九州地域戦略会議 夏季セミナー（5～6 日、鹿児島市） |
| 9 月 | 第 183 回理事会、理事・審議員合同会議（12 日、福岡市） |
| 10 月 | 第 67 回西日本経済協議会 総会（16 日、京都市）<br>及び要望活動（11 月 13 日、東京） |
| | 第 48 回九州地域戦略会議（27～28 日、名護市） |
| 12 月 | 顧問会（11 日、東京） |

2026年

| | |
|---|---|
| 1 月 | 正副会長･委員長会議（28 日、福岡市） |
| 3 月 | 第 76 回九州経済懇談会（経団連との懇談会）（12 日、福岡市） |
| | 第 184 回理事会（27 日、福岡市） |

## （付 1）　活動一覧（委員会、戦略会議、懇談会、事務局）

### Ⅰ．委員会

#### (1)　資源エネルギー・環境委員会

2050 年のカーボンニュートラルの実現に向け、GX 推進により九州における脱炭素に寄与するとともに、産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組みを展開する。

**■脱炭素社会の早期実現に向けた意識醸成や協業支援等の取組み**

①会員企業の取組み状況把握および課題集約
②情報発信および脱炭素取組支援
③脱炭素技術を有する企業と自治体のマッチングイベントの共催等を通じた地域脱炭素化支援
④ESG 投融資拡大に向けた金融機関の取組み支援

**■電力需要増加を見据えたエネルギー安定供給に資する取組み**

①電化・メタネーションガス・蓄電池等の社会実装に向けた情報発信と協業支援
②再エネや原子力など脱炭素電源の最大限活用に資する情報の発信、要望活動等
③再エネに係る新技術の調査・研究、および再エネ産業化推進支援

**■ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ（循環経済）の実現に向けた取組**

①サーキュラーエコノミーの意識啓発に資する講演会等を通じた情報発信
②動静脈産業連携の支援

#### (2)　産業振興・デジタル推進委員会

次世代ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ産業の育成や九州ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ･ｴｺｼｽﾃﾑ構築、産学官連携･地域連携による共創や人材育成等を通じて、九州における戦略産業の振興と持続的な成長実現並びに地域課題の解決を目指す。

**■「新生シリコンアイランド九州」の実現**
**～半導体応用産業と半導体関連産業を中心としたビジネスエコシステムの構築とまちづくり等に向けた取組**

① 会員企業および九州地域戦略会議と連携した課題解決の取組み推進
② 半導体ユーザー企業及び半導体関連企業の誘致・育成支援
③ 半導体応用分野（次世代自動車等）に関する調査・研究

**■次世代リーディング産業の育成・誘致・振興**

①次世代自動車等を戦略産業として設定し、次世代リーディング産業の育成・振興を推進

**■九州イノベーション・エコシステムの構築**

①スタートアップ・ベンチャー支援を通して九州イノベーション・エコシステム構築を推進

**■産学官連携による課題解決促進と高度専門人材の育成支援**

①産学連携懇談会などを利用した産学官の連携による課題解決の促進
②ICT 人材育成事業（インターンシップ）の推進と九州広域展開

**■デジタル化･自動化等による生産性･付加価値向上**

①デジタル活用、サプライチェーン可視化等の先進事例の共有、DX 支援の推進等による中堅･中小企業の生産性向上と高付加価値化支援

**■広域データ連携の推進**

①九州における広域データ連携のあり方検討

#### (3)　地域共創委員会

地域の社会課題解決と魅力向上による「地方創生」に重点を置き、特定エリアを舞台とする実践的モデル事業と、九州の総意形成による九州一体の取組の両輪で事業を展開し、多様な人々が幸せを感じながら活躍できる、持続可能な地域づくりを目指す。

**■地域の「稼ぐ力」を高める**

① 食品の輸出拡大に向けた官民共同プロモーションによる各種輸出フェア等の連携実施
② 農業の持続的成長に向けた多様な担い手の確保と生産性向上支援
③ 中大規模木造建築物の普及による林業活性化と CO2 削減への貢献

**■人の流れをつくる**

① 地域への経済効果の最大化を目的とした「ツール･ド･九州」の開催

**■共生社会（多様性）**

① ジェンダー主流化の取組（九州地域戦略会議プロジェクト、女性管理職ネットワーク）

**■地域の課題解決**

① 人材確保・活躍推進
② 地域資源を活かした輝く地域づくり
③ 幸せコミュニティ推進/健康経営

**■安心して暮らし続けられる**

① 防災 DX の官民共創（災害対策高度化支援、防災対策サービス の官民共創、広域連携の仕組みづくり）

#### (4)　交通委員会

九州の一体的な発展を目指すため、「アジアに近い九州」という強みを活かし、観光・産業振興、アジアのゲートウェイとしての空港・港湾機能の向上、循環型高速交通網及び地域公共交通網の整備等を推進する。

**■域内交通基盤の着実な整備促進**

① 地域の産業振興を目的として基盤となるインフラ整備の事業化・事業の早期実現に向けた機運醸成・促進大会開催・要望活動
② 東九州自動車道、下関北九州道路等、九州域内道路網に関する効果的な大会･要望活動

**■地域交通ネットワークの維持及び観光活性化に資する「九州 MaaS」プロジェクトの実行**

① 地域経済の活性化につながる取組の推進
(観光･イベント等地域のコンテンツとの連携、インバウンド誘致等)
② 官民共創事業の実施(移動円滑化、移動需要の創出、持続可能な地域交通の構築)

#### (5)　関門連携委員会

九州と本州の連携を強化し、関門地域の一体的発展を図るため、地域振興における発展戦略について調査・検討を進めるとともに、下関北九州道路の早期実現に向けた整備促進大会や要望活動を行う(中国経済連合会との合同委員会につき、同連合会との連携による)。

**■関門連携による地域活性化**

① 広域連携を軸とした地域ブランド向上に向けた活動

**■関門地域内の交通基盤整備**

二県二市、経済団体と連携した道路整備促進

### (6)　各地域委員会

各地域の産業経済に関する諸問題を調査研究し、意見を取りまとめ、九経連全体としての活動に反映することにより、その解決、実現を図ることを目的として、地域に根差した魅力ある九経連活動を展開する。

**■地域に根差した活動強化**

① 九経連全体の地域課題解決プロジェクトとの協働・連携事業
② 講演会、視察会等による調査研究、会員意見交換会を通じ、各地域固有の課題の抽出と九経連活動への反映
③ 会員相互の交流・連携の促進

## 2．　九州地域戦略会議

### (1)　九州地域戦略会議

官民一体となった九州独自の発展戦略の研究や具体的施策を推進する。メンバーは下記の通り。

九州地方知事会（各県知事）、九経連会長及び会長が指名する者、九州商工会議所連合会会長及び会長の指名する副会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長

・テーマ：「次期九州創生ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の検討他
・第 47 回：2025 年 5 月 28･29 日 ／福岡県
・第 48 回：2025 年 10 月 27･28 日／沖縄県

### (2)　夏季セミナー

産官学のトップリーダーが一堂に会し、九州の発展に向けた共同体意識を醸成し、様々な課題について討議・提言を行う。メンバーは下記の通り。

九州地方知事会（各県知事以下三役等）、域内大学学長、各県議会議長、経済４団体の会員企業　等

・第 22 回夏季セミナー：2025 年８月５～６日／鹿児島市

## 3．　懇談会

### (1)　沖縄連携フォーラム

沖縄県経済団体会議との共催により、九州･沖縄の連携と両地域の相互理解、共通課題について意見交換、検討を行うとともに、解決を図る。

### (2)　九州経済懇談会

日本経済団体連合会（経団連）との共催により、わが国並びに九州地域が当面する課題について、意見交換する。（2026 年 3 月 12 日／福岡市）

### (3)　九州経済を考える懇談会

九州の経済団体※の長が、九州経済の現状と重要課題について共有するとともに、課題の解決に向けた方向性について議論する（年２回程度）。

※九州の経済団体：九経連、九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、九州商工会議所連合会、九州経済同友会、九州経営者協会、九州経済調査協会

### (4)　産学連携懇談会

九州の発展戦略や産学連携に関する諸課題について意見交換する。（2025 年４月 23 日／福岡市）

・主要テーマ：
「知」の拠点強化、共同研究･ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、課題解決型ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、地方創生、産業活性化、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化、九州に求められる人材育成･確保 等

### (5)　西日本経済協議会

（2025 年度幹事：（公社）関西経済連合会
九経連内担当：総務国際部）

北陸、中部以西の６つの経済連合会※が連携して、西日本地域の共通の課題解決に向けた取組を展開するとともに、国等に要望する。

※6 つの経済連合会：北陸経済連合会、(一社)中部経済連合会、(公社)関西経済連合会、（一社）中国経済連合会、四国経済連合会、(一社)九州経済連合会

・総会：2025 年 10 月 16 日／京都市
・要望：2025 年 11 月 13 日／東京

### (6)　九州女性の会

「九州で働く女性が、管理職や経営者として、九州ひいてはグローバルで活躍できるための資質を高める」を方針として掲げ、九経連会員の女性経営者及び女性管理職による勉強会や交流等を実施する(月１回)。

## 4．　事務局

### (1)　全体的な取組

① 九州がアジア等海外諸国の成長とともに発展するため、海外政府機関・経済団体との間で締結した MOU（11 カ国・地域）等を活用し、九州の中小企業等の海外ビジネス展開の実現に向けた環境整備や対日投資の誘致、諸外国とのネットワーク強化を図る。
・「九州プロモーションセンターin ハノイ(KPC)」を中核としたアセアン戦略の構築･実践
・オール九州の官民による海外ミッション派遣

② これまで以上に地域の情報を把握し課題解決につなげるため、各地域に「地域参事」（駐在担当者）を設置。地域課題と九州全体の戦略･動きを共有し、各委員会や九州地域戦略会議等を通じて実践的活動に取り組む。

### (2)　会員サービス

① 事務局のデジタル化、並びにペーパーレス化を更に推進し、電子メールによるタイムリーな情報発信を行うとともに、各種案内への申込手続き等の利便性向上を図るなど会員との相互連絡を円滑にする。
② セミナーや懇談会等会員交流の場を増やしてビジネス創出につなげるなど、会員同士並びに事務局間の相互理解と一体感を醸成する。
③ ジェンダーギャップ解消と女性の活躍促進を図るため、九経連「九州女性の会」（会員企業の女性経営者及び女性管理職が参加）の活動を支援する。
④ 九経連の取組に関するアンケート等を適宜実施し、会員の声を事業計画（中期、単年度）などに反映し、実行に移していく。

### (3)　広報

① 報道機関に対して、定期的、かつタイムリーな情報提供を行うなど PR 強化を図る。
② ホームページや新着情報メールサービスの活用等により、活動実績や予定等をスピーディに提供することで発信力を強化し、本会活動への参画者増につなげる。
③ 九経連四季報を発行。特集ページを中心とした内容の充実などホームページとの差別化を図り、会員にとって役立つ情報誌とする。

## （付２）　関連協議会等

### (1)　下関北九州道路建設促進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 地域共創部）

関門地域の一体化と交流拡大、地域経済の活性化に寄与するため、下関北九州道路の早期実現に向けた活動を実施する。

### (2)　東九州軸推進機構

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 地域共創部）

東九州地域の産業・経済をはじめとする地域社会の活性化を図るため、高規格幹線道路による循環型高速交通ネットワークの整備等に向けた活動などを実施する。

### (3)　九州航空宇宙開発推進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 産業振興部）

九州地域の航空機産業の育成･拡大と宇宙産業の創出を図るため、産学官が一体となって技術レベルの向上や受注獲得のためのアプローチ支援などを実施。2022年に策定した第３次アクションプランを一部見直した上で、九州における航空･宇宙産業の新たなステップに向けて取組を展開する。

### (4)　九州国際医療機構

（代表理事：中村雅史・九州大学病院長
事務局：九経連 地域共創部）

九州の医療機関と産学官の連携により、外国人医療渡航者の九州誘致を目指す。この取組が、在留外国人へのサービス提供の質のさらなる向上へと相乗効果を生み、そして観光等への波及効果へとつなげることで、九州経済の活性化に寄与することを目指す。

### (5)　九州の食輸出協議会

（会長：弓場秋信・弓場貿易㈱社長
事務局：九経連 地域共創部）

九州の生産者･食品製造業者等と九州に拠点を置く商社との連携や海外需要開拓に向けた協働を後押しし、九州の農林水産物及び食品等の輸出拡大を目指す。

### (6)　九州経済国際化推進機構

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九経連 総務国際部、九州経済産業局）

九州経済のグローバル化に向け、九州経済産業局、九州各県･政令市、企業等との連携を図り、タイへの経済交流ミッションの派遣や、環黄海経済･技術交流会議（九州・中国・韓国の３カ国会議）の開催など、海外との経済交流事業を実施する。

### (7)　九州･沖縄地方創生･産業振興懇談会(仮称)

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九州地方知事会、九州経済産業局、
九経連 経営企画室）

2024 年、第 13 回「九州・沖縄地方産業競争力協議会」において、同協議会の今後の在り方を議論した結果、本年新たに「九州･沖縄地方創生･産業振興懇談会（仮称）」として再編し、第１回目の懇談会を実施する。九州地域戦略会議と相互に補完･連携しながら、九州･沖縄の地方創生、産業振興に資するよう、情報共有･意見交換を行う。
※Earth 戦略Ⅱは 2025 年をもって終了し、
後継の戦略は策定しない。

### (8)　九州ＤＸ推進コンソーシアム

（共同代表：九州経済連合会 会長、九州大学 総長
事務局：九経連 産業振興部、九州大学、福岡県、
デロイトトーマツグループ）

域内の自治体や企業、大学等、産学官金の関係者が一体となって、地域におけるデジタル人材の育成や、デジタル技術の活用による地域課題の解決と新たな産業の創造を推進し、持続可能な地域社会と経済発展の実現を目指す。

### (9)　九州・沖縄文化力推進会議

（事務局：福岡県、九経連 地域共創部）

九州・沖縄・山口各地域における文化活動の推進と文化の発信による地域活性化に官民が連携して文化プログラムを実施する。特に、国内外から訪れる観光客に対し、九州・沖縄・山口の各種文化をＰＲしていくとともにエリア内の周遊を促す。

### (10)　九州大学学術研究都市推進協議会

（会長：九州経済連合会 会長
事務局：九州大学学術研究都市推進機構
九経連内担当：地域共創部）

九州大学学術研究都市構想の総仕上げに向けて産学官民がより一層連携し、新たなフェーズを迎える学術研究都市づくりを推進する。

### (11)　知的財産権研究会

（事務局：九経連 産業振興部）

九州の産学官が一体となって知的財産権法をはじめとする様々な経済法の現状と課題について検討するため、毎月１回研究会を開催する。

### (12)　九州エネルギー問題懇話会

（委員長：杉田浩二・九経連副会長）

エネルギー問題や地球環境問題について、情報や知識の交流を行い、多くの方々に身近な問題として考えていただくことを目的に、講演会や見学会などの諸活動を実施する。

## （13）(一社)九州 MaaS 協議会

(会長：九州経済連合会　会長
　事務局：九経連 地域共創部、西鉄 、JR 九州）

2023 年度に九州地域戦略会議で策定した「九州 MaaS グランドデザイン」の実現に向けて 2024 年 4 月に設立。九州 7 県と各県で事業を展開する陸・海・空の交通事業者他約 100 を超える企業・団体により構成される、国内初の広域連携・官民共創による MaaS の実行組織。地域交通ネットワークの利便性と持続可能性の向上に向けた取り組みを、官民が一体で推進する。

## （14） (一社)ツール・ド・九州

(理事長：九経連専務理事、
大会実行委員会会長：九経連会長）

九州地域戦略会議において、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会のレガシーの持続的継承や九州でのサイクルツーリズムの推進、九州を襲った自然災害からの復興を象徴するイベントとして国際サイクルロードレース「ツール・ド・九州」の開催を決定し、その運営組織として 2022 年 3 月に設立された。“Make Kyushu Sustainable～九州の持続可能な未来のために～”を大会の基本方針とし、環境への配慮、DX 推進、若者の探究学習など SDGs の観点から、産官民が一体となって九州地域活性化に資する本大会ならではの取組を実施。

## （15）九州・大学発ベンチャー振興会議

(共同議長：九州大学 総長、九州経済連合会 会長
　事務局　：九州ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、
　　FFGﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽﾊﾟｰﾄﾅｰｽﾞ、
　　九経連 産業振興部）

「優れた大学なくして地方の発展なし」という基本認識のもと、九州の産学が一体となって、地域経済発展の駆動力としての大学発ベンチャーを振興することを目的として、大学・経済界・ベンチャーキャピタルをつなぐ役割を果たし、大学シーズの速やかな実用化を支援する。

# 報告事項２－２

## 2025年度 収支予算

2025年4月1日から2026年3月31日まで　　（単位：円）

| 科　目 | 2025年度<br>予算額（A） | 2024年度<br>予算額（B） | 増 減<br>（A）-（B） | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．事業活動収支の部** | | | | |
| **１．事業活動収入** | | | | |
| 基本財産収入 | | | | |
| 特定資産運用収入 | | | | |
| 特定資産運用収入 | 850,000 | 500,000 | 350,000 | 金利上昇 |
| 入会金収入 | | | | |
| 入会金収入 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 新入会目標30社 |
| 会費収入 | | | | |
| 会費収入 | 295,070,000 | 295,520,000 | △ 450,000 | 入退会予測差引後 |
| 雑収入 | | | | |
| 受取利息収入 | 100,000 | 10,000 | 90,000 | |
| その他収入 | 1,350,000 | 1,350,000 | 0 | 事務委託費等 |
| 事業活動収入計（A） | **298,870,000** | **298,880,000** | **△ 10,000** | |
| **２．事業活動支出** | | | | |
| 事業費支出 | | | | |
| 給料手当支出 | 106,900,000 | 104,700,000 | 2,200,000 | 定期昇給 |
| 総会役員会費支出 | 8,000,000 | 7,200,000 | 800,000 | 会場費、パーティ費等増 |
| 会員懇談会費支出 | 5,300,000 | 5,300,000 | 0 | |
| 委員会費支出 | 49,700,000 | 48,700,000 | 1,000,000 | 半導体強化 |
| 調査費支出 | 3,700,000 | 4,800,000 | △ 1,100,000 | タイ訪問団、農業調査等 |
| 刊行費支出 | 4,900,000 | 4,800,000 | 100,000 | |
| 旅費交通費支出 | 9,400,000 | 9,400,000 | 0 | |
| 通信費支出 | 2,300,000 | 2,200,000 | 100,000 | |
| 図書資料費支出 | 500,000 | 1,000,000 | △ 500,000 | 定期購読見直し |
| 加盟団体費支出 | 2,700,000 | 2,500,000 | 200,000 | |
| 特別事業費支出 | 20,200,000 | 20,000,000 | 200,000 | 「ツール・ド・九州」事務所運営費 |
| 研修費支出 | 300,000 | 500,000 | △ 200,000 | |
| 交際費支出 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 印刷費支出 | 2,000,000 | 2,500,000 | △ 500,000 | ペーパレス推進 |
| 消耗品費支出 | 300,000 | 500,000 | △ 200,000 | |
| 諸税支出 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 雑支出 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 事業費支出計（B） | **217,200,000** | **215,100,000** | **2,100,000** | |
| 管理費支出 | | | | |
| 役員報酬支出 | 19,000,000 | 19,000,000 | 0 | |
| 退職給付費支出 | 19,800,000 | 0 | 19,800,000 | 必要額 |
| 福利厚生費支出 | 24,100,000 | 25,900,000 | △ 1,800,000 | 社会保険料積算 |
| 家賃支出 | 36,000,000 | 35,900,000 | 100,000 | |
| 備品費支出 | 10,800,000 | 10,000,000 | 800,000 | ライセンス料追加 |
| 修繕費支出 | 3,000,000 | 11,000,000 | △ 8,000,000 | 間仕切工事終了、機器保守料 |
| 管理費支出計（C） | **112,700,000** | **101,800,000** | **10,900,000** | |
| 事業活動支出計（D）=（B）+（C） | **329,900,000** | **316,900,000** | **13,000,000** | |
| 事業活動収支差額（E）=（A）-（D） | **△ 31,030,000** | **△ 18,020,000** | **△ 13,010,000** | |

（単位：円）

| 科　目 | 2025年度<br>予算額（A） | 2024年度<br>予算額（B） | 増 減<br>（A）-（B） | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ．投資活動収支の部** | | | | |
| **１．投資活動収入** | | | | |
| 特定資産取崩収入 | | | | |
| 退職給与引当預金取崩収入 | 19,800,000 | 0 | 19,800,000 | 退職給与費に充当 |
| 運営準備引当預金取崩収入 | 20,000,000 | 20,000,000 | 0 | 特別事業費に充当 |
| 投資活動収入計（F） | **39,800,000** | **20,000,000** | **19,800,000** | |
| **２．投資活動支出** | | | | |
| 特定資産取得支出 | | | | |
| 退職給付引当預金取得支出 | 10,000,000 | 9,000,000 | 1,000,000 | 必要額を繰入 |
| 減価償却引当預金取得支出 | 1,500,000 | 900,000 | 600,000 | 必要額を繰入 |
| 什器備品取得支出 | 0 | 5,000,000 | △ 5,000,000 | 間仕切工事等終了 |
| 投資活動支出計（G） | **11,500,000** | **14,900,000** | **△ 3,400,000** | |
| 投資活動収支差額（H）=（F）-（G） | **28,300,000** | **5,100,000** | **23,200,000** | |
| **Ⅲ．財務活動収支の部** | | | | |
| **１．財務活動収入** | | | | |
| 借入金収入 | ― | ― | ― | |
| 財務活動収入計 | ― | ― | ― | |
| **２．財務活動支出** | | | | |
| 借入金返済支出 | ― | ― | ― | |
| 財務活動支出計 | ― | ― | ― | |
| 財務活動収支差額 | ― | ― | ― | |
| **Ⅳ．予備費支出** | | | | |
| 予備費支出（I） | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額（J）=（E）+（H）-（I） | **△ 2,730,000** | **△ 12,920,000** | **10,190,000** | |
| 前期繰越収支差額（K） | **68,886,984** | **74,373,824** | **△ 5,486,840** | |
| 次期繰越収支差額（L）=（J）+（K） | **66,156,984** | **61,453,824** | **4,703,160** | |